

温泉のあらゆる知識を1冊に網羅しながら、
これから温泉のあり方を考えていくためのヒントを提供する、
初めて的一大百科。

温泉の百科事典

A5・700頁 定価21,000円(税込) ISBN978-4-621-08506-6

編集代表：阿岸祐幸（北海道大学名誉教授）

編集幹事：田中宗隆（株）サウンドプロセスデザイン・浜田眞之（有）国際温泉研究院）

編集委員：飯島裕一（信濃毎日新聞編集委員）・大塚吉則（北海道大学教授）・甘露寺泰雄（中央温泉研究所）・清水富弘（健康保養地医学研究所）・立川昭二（北里大学名誉教授）・鳥海宗一郎（文芸評論家）・布山裕一（日本温泉協会）・山村順次（城西国際大学教授）・綿抜邦彦（東京大学名誉教授）

温泉ブームといわれる昨今ですが、温泉をめぐる事故・トラブルが世間を騒がせたり、一方では大型温泉旅館の度重なる廃業に伴う温泉地の衰退といった事態も発生します。これは温泉業に携わる人々までもが温泉に関する知識を表層的にしかとらえておらず、温泉本来のあり方をしっかりと理解することを怠ってきた結果であると思われます。

そこで本書は、科学、医学はもちろん歴史、芸術、経済にいたるまで温泉に関するあらゆる知識を1冊に網羅することにより、からの温泉のあり方を考えていくための一助となることをめざした中項目事典です。

Table of Contents page showing various chapters and sections, including:

- 温泉入浴 (Methods of bathing)
- 全身浴 (General bath)
- 入浴法 (Methods of bathing)
- かぶの湯 (Hot tub)
- 温泉の準備 (Preparation for温泉)



リムジンなど異なるなど、温泉に治療効果があることを学んだ。実際にもたらされた温治効果を神の靈能や加減によるものと考え、温泉信仰が深まる。温泉信仰は土地固有宗教や伝習・宗教によって論理化され、形を整えていく。



にも古来山や川、滝などの自然信仰があり、温泉信仰は特に理論づけられたのが仏教でも、神は六合の要素を發揮する力がある。温泉信仰は主に地元の病院や寺社で、日本では温泉神を治療力を發揮する温泉の守護神となっていた。一方、古来の山から泉源、温泉は温泉地の象徴である。さらに温泉と火災との組みつけへの経験から、伊豆山の火除神や火除山神である。さらには温泉と火災との組みつけへの経験から、伊豆山神社の火除山神や火除川神である。今日温泉神として最も知られる、記紀で病魔から醫薬を教えた少彦名神と大己貴神=太國主神が温泉神社に祀られている。



温泉は神靈を本尊に祀る「温泉神社」、温泉を守る場所や泉源から引いた共同浴場の権などに見えてくる。

神にまつわる神話「延喜式」神名帳には神社名を記すときり 10 社以上の温泉神社が記載される。名称は鷲木枕那須海、福島縣いわき湯本、



図 1 オーストラリアの温泉地の分布 (山村順次著 2001)

